

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
- 1 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
 - 2 キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
 - 3 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

2 中期的目標

- 1 基礎学力の充実
 - (1) 授業改革を進め、学習に積極的に取り組み、確かな学力を実感できる教育環境を実現する。
 - ア 生徒の、学習への興味・関心を一層喚起し、より理解を深める授業を実施するため、全ての教室のICT活用環境を整備する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、授業内容の+評価を、前年度比5%以上向上させる。(平成27年度の目標)
 - イ アクティブ・ラーニングを始めとする、生徒の積極性・能動性を引き出す授業方略を実施する。
 - ※ 授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識の評価の向上。(平成27年度3.06)
 - ウ 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、図書館整備を行う。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。(平成27年度34%)
- 2 キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。
 - (1) 「総合的な学習の時間」を活用し、3年間を通じた、計画的なキャリア教育を実施する。
 - ア 各学年の「総合的な学習の時間」において、キャリア教育を主軸とした学習を実施する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、進路関係の+評価を、前年度以上にする。(平成27年度81%)
 - (2) 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
 - イ 各進路希望別ゼミの充実を図り、各自の希望進路が実現できる能力を育成する。
 - ※ 就職決定状況の高水準維持(平成27年度内定者80名)、進学講習、勉強合宿等学習機会の充実。
- 3 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。
 - (1) 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
 - ア 生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
 - ※ 部活動参加率60%以上への向上。(平成27年度45%)
 - (2) 地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
 - イ 地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。
 - ※ 各種地域活動への参加と、学校教育自己診断(生徒)における、社会のルールを学ぶ機会がある評価を、80%以上にする。(平成27年度73%)
- 4 学校運営組織の充実と指導力向上
 - (1) 授業研究を積極的に進め、経験の少ない教員の授業力の向上を図る。
 - ※ 初任者育成体制の確立、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】 昨年度より肯定率が向上した設問の割合は、生徒85%、保護者20%、教職員56%。保護者の肯定率向上設問の割合が少ないが、数値の変化は殆どなし。「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」83.7%「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」86.2%と、保護者の高い評価を得、今後も家庭と連携を取りながら教育活動を進めていく。</p> <p>【学習指導等】 「学校に行くのが楽しい」71.4%「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」74.6%「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」77.7%といずれも70%以上の高い評価を得ている反面、「授業は分かりやすく楽しい」53.5%と低く、ICT機器が充実していないことや、学校の図書室利用率が32.9%と活字離れが影響しているのか。読書習慣やアルバイトに対する指導を含めた家庭学習の在り方を改善し、学力向上の取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>【進路指導】 「将来の進路や生き方について考える機会がある」84.9%、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」82.6%と高い評価で、昨年度のポイントを上回っている。『キャリア教育の充実』が生徒の満足を得られる形で実施されている。</p> <p>【生徒指導等】 今年度の遅刻回数は、昨年度より半減している。学校の基本である授業を大切にしようという姿勢の表れである。「生活規律や学習規律などの生活習慣の確立に力を入れている」「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が76%、「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」71%。保護者の方も生徒指導の方針に共感し(76%)、日頃から学校と保護者とが連携して学校生活の充実に努めていることが窺える。</p>	<p>【第1回】H28.5.18(水)平成28年度学校経営計画について ・キャリア教育におけるアクティブ・ラーニングについて、進路指導部だけの仕事でなく、職員間の共有感が大切。 ・部活動や地域連携(校区の小学校との交流等)について、よく頑張っている。生徒自身が自律・自尊感情が持てる場を増やしては。 ・アルバイトに対するコンセンサスの構築が必要。 ・図書館利用について、落ち着ける場所をつくるのも一つの方法。引き付ける工夫が必要。</p> <p>【第2回】H28.10.26(水)授業見学と新入生アンケート結果について ・情報の授業において、ICT機器の進歩に驚いた。ITの授業は質問しやすい雰囲気があり、少人数の授業は緊張感があってよい。 ・教員の言葉遣いが丁寧で、生徒も落ち着いて授業に集中している。 ・学校以外の学習時間を調べては。日常の学習時間の確保は必要で、今後の課題。 ・進路が決定してから、次の春までの期間が長く、学力を維持するのが大変である。決まってから勉強をしていないと、入学後本人が苦勞する。</p> <p>【第3回】H29.1.30(月)学校教育自己診断及び3年生の進路状況について ・就職が内定している生徒を含め、進学希望の生徒にも将来何をしたいのか、どのように生きたいかなど、次のことをよく考えさせることが大切。 ・中学校でのアクティブ・ラーニングの取り組みの成果は学習面以外でも、自分たちで考えて解決する習慣が身についたり、生徒全体の雰囲気が柔らかくなってトラブル等も少なくなったと実感している。 ・教員の研修・研究の成果を共有できていないのが残念。 ・学校側の努力を保護者にもっとアピールすることも必要。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の充実	(1) 確かな学力を実感できる教育環境の実現 ア ICT活用環境の整備 イ 生徒の積極性・能動性を引き出す授業 ウ 読書の促進と図書館整備	(1) ア・無線LAN環境をさらに整備し、授業において、教師がタブレットPC等を活用して、生徒の学習意欲を高める授業が実施できる環境整備を進める。 ・ICT活用授業を推進する授業改革を進めるためのチーム作りと活動の活性化を図る。 イ・アクティブ・ラーニング等の授業方略の導入し、経験のある教員の指導のもとで、授業改善を全面的に進める。 ウ・図書館整備をさらに進め、学習にも活用できる環境整備を行い、本に親しむ環境を整える。	・主な教科でのアクティブ・ラーニング実践授業の実施。(学校教育自己診断(生徒)によるICT活用授業のプラス評価を65%以上)(平成27年度は調査項目なし) ・授業アンケートの「授業分析」「生徒意識」項目のポイントの向上(平成27年度は3.06) ・学校教育自己診断における読書状況の改善(平成27年度は34%)	(1) ア・無線LAN環境は今年度中に整備が完了する。どの教室からでもタブレットPCを活用した授業が展開可能となった。生徒のICT活用授業のプラス評価は67.3%で向上しているものの肝心のタブレットPC及びプロジェクターが数台しかないため、多くの授業で活用できず。しかしながら、教員の約53%が活用し、1人当たり年間約24回展開しており、整備の急務が不可欠である。(○) イ・授業アンケート「授業分析」3.20「生徒意識」3.05と若干の向上が見られ、それぞれの授業で生徒の理解度が進む取り組みが展開されている。(○) ウ・整備は完了し、生徒の図書館利用率は33%と昨年度の状況を若干上回った。これらの数値に含まれない初めて利用した生徒は14%と微増。授業・講習等での図書室の活用は昨年より増加し、調整が必要となっている。昨年は活用ほとんどなし。(○)
2 たくましく生きる力の育成	(1) 3年間の計画的なキャリア教育 ア 「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育 (2) 進路実現の可能性を拡大 イ 各進路希望別ゼミの充実による希望進路の実現	(1) ア・「総合的な学習の時間」を計画的に実施し、3年間を通じたキャリア教育のシラバスを確立する。 ・「カタリ場」「ガイダンス」等、外部人材を活用した、より広い観点からのキャリア教育を一層充実させる。 (2) イ・「総合的な学習の時間」の中で、進路別ゼミを実施し、希望進路の実現を図る。 ・進学講習、勉強合宿等、進学希望者の意識・学力の向上をめざした教育活動を積極的に進める。	・学校教育自己診断(生徒)による進路関係のプラス評価を前年度以上に向上。(平成27年度は81%) ・学校幹旋就職を始め、進路別希望者全員の希望実現。(平成27年度はほぼ70%、平成28年度は80%目標) ・進学希望者勉強会に20名以上の参加者を得る。	(1) ア・今年度の実施で西寝屋川の「総合的な学習の時間」シラバスが確立した。LHRとの連続実施で、より効果的な指導が確立出来た。(○) ・「カタリ場」は抽選に漏れ実施出来なかったが、代わりに外部人材の活用で寸劇実施で「将来を考える」や職業別のガイダンスを実施した。進路関係のプラス評価は83.8%。(◎) (2) イ・今年度の進路希望実現は87.5%で昨年を上回った。(◎) ・高大連携先の大阪国際大学での進学希望者講習会の参加者は15名で、目標の参加者数には届かず。今後は、平日の講習も含めて、進学者へのフォロー体制を整備する。(△)
3 よき社会の構成員の育成	(1) 学校行事、部活動の活性化 ア 集団の中で人と調和しながら活動できる能力の育成 (2) 地域との連携の中で、社会性を育成 イ 地域連携活動参加を促進し、自信と誇りを高める	(1) ア・新入生全員加入期間を複数回実施するなど部活動参加促進の取り組みを積極的に進める。 ・朝のSHRを全面的に有効実施し、遅刻防止、健康把握を行う。 ・アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、社会人としての規範を身につける指導を展開する。 (2) イ・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事等へ積極的に参加し、地域連携を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成を図る。 ・行事公開、授業公開により、開かれた学校づくりを進めるとともに、誇りを持つ学校づくりを進める。	・1年生の部活動加入率で60%を上回る(平成27年度は45%) ・全体の遅刻回数をのべ5000回以内とする(平成27年度は5800回) ・学校教育自己診断による「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を80%以上にする。(平成27年度は73%)	(1) ア・1学期2学期と複数回実施した結果、1年生の加入率が61%となり、参加を決めかねている生徒にとっては大変有効な機会となった。また、中学生を招いてバスケットボールとサッカーにおいて「西寝屋川杯」を実施。多くの参加希望があり、好評であった。(○) ・朝のSHRを全学年で完全実施。遅刻の回数は全体で約2000回減り、計3200回となった。(◎) ・「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価は昨年度より向上したが、74.5%で目標には届かなかった。(△) (2) イ・生徒会が主体のあいさつ運動や交流行事は地域の評価は高い。小学校への出前授業は、小学校の評価も高く、今後も継続して行っていく。何より参加生徒約60名全員の満足度(肯定感)が高く(100%)、継続することで、自尊感情の育成を今後も狙いたい。(○)
4 学校運営組織の充実と指導力向上	(1) 経験の少ない教員の指導力の向上	(1) ・授業研究、ケース研究の機会を拡大し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。	・学校教育自己診断による「研修成果の共有」の評価を40%とする。(平成27年度は29%) ・学校教育自己診断による相談に関する評価を60%以上にする。平成27年度は56%)	(1) ・「研修成果の共有」の評価は40%となり、一応の目標は達成しているが、十分に学校外の研修に参加できている状態とは言えず、今後積極的に参加を働きかけていく。(○) ・生徒の学校教育自己診断による、相談に関する評価は54%で、目標達成には至らなかった。(△) ・今年度の取り組みでICT活用プロジェクトチームから、相互授業見学(公開授業)を常時公開ということで実施した。経験の少ない教員の積極的な実施から、授業力向上に対する意欲向上を図った。(◎) 次年度からは各教科ごと等、全教員による相互授業見学を実施したい。